

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	のびっこらんど原町（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日	～	令和7年 1月 31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	29名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日	～	令和7年 1月 31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間でコミュニケーションが取れており、情報の共有やプログラムの検討、支援に関するカンファレンス等、活発に意見交換が出来る。	それぞれの視点での見立てを大切に多角的に子供の姿を見る事を意識している。	年度ごとスタッフ構成が変更になる事もあるが、お互いに協力する体制が崩れないよう、話が出来た場や雰囲気作りに留意し、チーム力を向上させていく。
2	言語聴覚士が配置されており、保護者様がことばに関する相談をしやすい。	言語聴覚士と共に保育士も一緒に考えるようにし、ことばの育ちだけでなく全体的な発達や特性なども踏まえ保護者の相談に応じるようにしている。	分野ごとにスキルアップを目指し、よりよい支援に結びつくよう努力する。
3	ホールが広く、トランポリンも設置してある為、粗大運動に取り組みやすい。	トランポリンだけでなく、ホールを使ったサーキット遊びも定期的実施し、運動機能の発達の評価にも活かしている。	ホール内遊具の配置を柔軟に変更しながら、子供たちの発達に繋がる様々な運動遊びが提供出来るよう検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連携が取れている幼稚園・保育園と連携が薄い園との差がある。	園に在籍している児の人数やお子さんの状況により、大きな困り感や課題が無いと連携を図るきっかけが少なくなってしまう。	課題が見えてからの連携ではなく、常に情報や目標の共有を図って行く事が課題解決への近道である事を十分に理解し、園との連携に取り組んでいく。
2	送迎利用児の保護者様との接点が少なくなってしまう。	往復の送迎サービスをご利用いただいているお子さんは、保護者様とお会いする機会がなく、こまめな情報共有がしにくくなってしまっている。	土曜日開催の行事等への積極的な参加を呼びかけ、実際にお会い出来る機会を設定していく。電話連絡や面談などの場も活用し、意識して話をする場を設けていくようにする。
3	行事のお知らせが遅れがちになってしまう。	週に1回の利用が主であり、行事のお知らせが保護者様へ届くまでに時間が必要な状況は理解が出来ているが、通常業務の中で計画的に行事企画に取り組む事が難しく滞ってしまう。	行事の企画を計画的に実施すると共に、タイムリーに情報をお伝え出来るマチコミを活用し、早めに行事のお知らせができるようにしていく。